



生徒会執行部からのメッセージ Part2

前号に引き続き、生徒会役員の決意文を紹介します。今回は、書記になった4人の言葉です。



【 生徒会書記 村上 七海 さん 】

この度、生徒会書記になりました村上七海です。私はこの1年間で、2つのことを実現したいと思っています。1つ目は、「あいさつを通じた地域づくり」です。河東中生の元気なあいさつを今まで以上に推進していき、地域全体の雰囲気を良くしていきたいです。2つ目は「クラブチームで活躍している人達の紹介の場を増やす」です。河東中には高い技術をもった人がたくさんいるのに紹介の場が少なく、もったいないと思いませんか？私はその人達を存分に生かし、もっと河東中を盛り上げていきたいです。書道をしてきた経験を生かし、皆さんの期待に応えられるよう頑張ります。1年間よろしくお願いします。

【 生徒会書記 日下部 朗史 さん 】

こんにちは、生徒会8年書記男子の日下部朗史です。私は、河東中の体育祭や文化祭などの大きな行事はもちろんですが、皆さんの日常生活などにもしっかりと目を向け、生徒会役員のメンバーと一緒に問題点を見つけて改善していきたいです。また、これからは新会長や新副会長を積極的に支え、エンジンのように表側からは見えないけれど、皆さんの背中を押していく存在でありたいと思っています。これからの一年間、よろしくお願いします。



【 書記 佐藤 汐里 さん 】

1年間、7年生書記として頑張っていきます佐藤汐里です。私が衝撃を受けた「元気なあいさつ」と「元気な返事」をもっともっと河東中に広げていきます。不安や悩みにぶつかった時、「元気なあいさつ」と「元気な返事」を交わすことで、自然と笑顔が生まれるはずですよ。私は生徒会書記として笑顔とあいさつが絶えない河東中にしていきます。また、生徒会活動の記録は、誰もが一目でわかるように記入し、SKY新聞はみなさんが興味を示すような新聞にしていきます。積極的に行動し、河東中生を引っ張っていくので、よろしくお願いします。



【 書記 中村 健太朗 さん 】

この度、書記に当選しました中村健太朗です。僕を応援してくださった皆さんと投票してくださった皆さんのおかげで当選することができました。本当にありがとうございました。あこがれの生徒会執行部に入ることができたという喜びに加えて、毎号楽しみにしていたこの学校だよりにのれるような立場になれたということもとてもうれしいです。皆さんの期待に応えることができるように全身全霊で精一杯頑張っていきたいと思っています。



今年 100 周年を迎えたウォルト・ディズニー社 ～アニメ「ファンタジア」で描かれた『魔法使いの弟子』より～

今年、ウォルト・ディズニー社が誕生してちょうど100周年を迎えます。世界各地で記念イベントが行われています。今回はディズニー社が制作した1940年のアニメーション「ファンタジア」に出てくる『魔法使いの弟子』という話を紹介します。この話は、もともとヨーロッパに伝わる話をディズニーがアニメ化したもので、古くはドイツの文豪ゲーテも詩の中に引用しています。その時代その時代で様々な解釈され教訓として人口に膾炙(かいしゃ)されてきたものです。みなさんは、どう読みとりますか？



ヨーロッパのある町に魔法使いの親方とその弟子が二人で暮らしていました。

ある日、親方は弟子に用事を言いつけて散歩に出かけました。「おれが帰るまでにフロの水をいっぱいにおきなさい。」

親方がとびらを閉めた後、弟子はベッドにごろんと横になりました。「水くみなんてめんどくさいな。何か楽に水をためる方法はないかな?…そうだ!」

弟子は飛び起きて、ほうきに魔法をかけました。「ほうきたちよ、川の水をくんでおいで。そして、その水をおフロの中に入れるんだぞ!」

すると、ほうきは自分の中から手を出して、両手に2つのバケツをつかんで川に向かって歩き出しました。「ヤッホー、うまくいったぞ!」。弟子は両手をたたいて喜びました。

ほうきは、川でくんできた水をフロに入れ、また川に向かって歩きます。これを何度も繰り返します。あっという間にフロの水はいっぱいになりました。

「さあ、終わったぞ!」。弟子はにっこり笑いました。

ところが、ほうきはいっこうに水くみをやめようとしません。やがて、フロから水があふれでてきました。水は床一面に広がっていきます。

「もうやめろ! もうおしまいだ!」—そう弟子が叫んでもほうきはやめようとしません。とうとう一階は水びたしになりました。

「はやく魔法をとかなくちゃ…」。しかし、いくら考えても魔法をとく呪文(じゅもん)を思い出すことができません。「そうだ! ほうきをこわしてしまえ」。弟子は倉庫からおのを持ってきました。ほうきを真二つに切りました。すると、ほうきは二つに増えました。そして、今までの2倍のスピードで水を運び始めました。あわてて弟子はほうきを次々に切りきざみます。おのでほうきを切るたびにどんどんほうきの数は増え、運ばれる水の量もその分だけ増えていきました。

「これじゃあ、おぼれてしまう〜」。弟子が2階への階段を登りだしたとき、魔法使いの親方が帰ってきました。

「なんだ、これは!」。びっくりした親方は、大急ぎで呪文を唱え、ほうきの水くみを止めました。

弟子が親方からこっぴどりしほりあげられたのは言うまでもありません。

この話は、子どもたちへの寓話としても、大人たちへの教訓としても長く語り伝えられてきました。現代文明へのメッセージともとらえられます。かつてルイス・マンフォードは、この話をもとに「理念なき科学技術の進歩は、ブレーキもハンドルもなくアクセルしかついてない自動車のようだ」と警告しました。例えば、核兵器や原子力発電などがそうかもしれません。人間は作ったもののどう対処していかかわからなくなっているのかもしれませんが。弟子がほうきをたくさん増やしたように、近代の人間はやりっぱなしに二酸化炭素を地球上にまき散らした末、地球温暖化をはじめ異常気象を生み出しました。

今年100周年のディズニー作品には、今回紹介した「ファンタジア」の8つの話の一つ『魔法使いの弟子』のように深く考えさせられたり、感動したりするものがたくさんあります。冬休みに1つ鑑賞してはどうでしょう。